

東日本大震災 ニュース

発行：東京民医連事務局

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：sien@tokyominiren.gr.jp



全国で広がる医学生支援の輪

3月19日に城南三法人が行った街頭支援募金に福島県いわき市出身と山形県出身の医学生2名が参加しました。ふたりは、「今、自分たちにできることは何だろうと考えたときに、自分たちでもできる募金活動をしよう」と今回の街頭での活動に参加してくれました。

医学生の支援の輪は、全国でも広がっています。以下、「東北北陸医学生震災支援ニュース 第1号」より抜粋します。

岐阜発：3月21日、名鉄岐阜駅前交差点で医療系学生ら15人が街頭募金活動を行いました。**三重発**：三重大学の医学部生が中心となり、学生200人規模で、県下の主要な駅で募金を呼びかける活動をしています。13日から始め、17日のお昼までに600万円を超える募金を集めました。**静岡発**：3月20日、浜松医大の学生有志は救援物資の提供を呼びかけるチラシを大学の周辺の民家に600枚配布。翌21日、あいにくの雨天となりましたが、学生駐輪場には近隣住民から次々と救援物資が届けられました。学生たちは、毛布、飲料水、ティッシュなど種類別に梱包。集めた物資は、浜北医療生協の救援物資とともに被災地へ送られました。

歯科支援 第三陣 帰着

3月26日から29日まで東京民医連歯科支援第三陣として代々木歯科・川島歯科チームが松島海岸診療所歯科へ。メンバーは、妹尾歯科医師、高木衛生士、佐々木技工士(代々木歯科)、黒澤衛生士、永江事務長(川島歯科)と県連事務局・及川の6人。

活動は診療所から車で40分ほどの石巻市内の避難所をまわり歯科治療、義歯補修、入れ歯洗いなど。断水していて歯磨きが十分にできず口腔内の状態の悪い人がたくさんいました。中には遠慮がちな人もいて、避難所の中をていねいにまわると実は・・・と相談されるお年寄りもいます。行政を中心にすえた生活支援が緊急に求められていると実感しました。(東京民医連 及川 正彦)

写真右の黒澤衛生士は、「実際に現地へ行ってみると、あまりの被害の大きさにショックを受け、『ひどい』という言葉しかできませんでした。微力でしたが歯科医療支援できてよかったです。自己満足で終わらぬよう、いろんな形で今後、復興支援に協力していきます」と感想を寄せてくれました。



福島原発事故は『想定』されていた！

多数の新聞、雑誌で、2006年に吉井 英勝日本共産党衆議院議員が国会で原発の危険性を指摘したことを紹介して、「安全」と言い続けた政府、東電の人災であることを明らかにしている。

『週刊朝日』2011年4月1日号では、「福島フィフティーズ」魂の叫び 世界が注視する原発でいま、何が進んでいるのか！、『女性自身』2011年4月5日号では、東京電力が握り潰した「欠陥警告」レポートと題して、「2007年7月、日本共産党福島県議団らが東京電力に提出した要望書。そこには今回の“悪夢のシナリオ”が予告されていた」、『サンデー毎日』2011年4月3日号は、「官邸VS.東電」不都合な真実等が掲載されている。